

女性のためのアウトリーチ型支援の実施

総事業費	1,067 千円
交付金額	800 千円

地域の実情と課題

- ・区の女性相談事業における過去3年間の29歳以下の相談者数は、全体の2～4%程度である。また、若年層の居場所としてティーンズ・センターを開設しているが、認知度は低い。
- ・新型コロナウイルス感染拡大やコロナ禍等の社会情勢の影響を受け、孤立や貧困等の困難な問題を抱える女性は増加傾向にあると言われていたが、社会的支援を必要とする女性に必要な情報や支援が十分行き届いていないという課題がある。

事業の特徴

就学・就労、子育て、介護・看護等により既存の相談事業を利用することが難しかった女性を含め、あらゆる状況の女性たちの突発的な支援要請に対応することができるよう、LINEを用いた相談窓口を開設し、相談を受け付けた。また、LINE相談等につながった相談者に対し、必要や希望に応じてアウトリーチによる支援を行った。

事業の効果

- ・アウトリーチ件数 6件
- ・LINE相談のうち、配偶者等からのDVや家族の問題等を抱える相談者に対して、事業受託団体・区主管課・警察等の関係機関で連携を図り、同行支援・対面相談・心理教育等の支援を実施した。

目的・目標

幅広い年齢層の女性が自らの進路や生活のあり方を自分で選択することができる地域社会の実現に向け、就労・就学・暮らし等の女性の悩み全般に対応できる相談体制と、悩みを抱えた女性に対する個別的支援を継続的に実施できる体制を構築する。そのための取り組みの一つとして、若年層女性の居場所（SNS上を含む）づくりにもつながる、女性のためのアウトリーチ型支援を実施する。

<目標>
年間件数 30件

連携団体

東京都北区女性活躍推進協議会
NPO法人
北区社会福祉協議会
区内教育機関・北区教育委員会
北区子ども家庭支援センター
北区生活福祉課 等

今後の課題

- ・年間30件のアウトリーチを実施できる体制を構築していたが、実績は6件のみであった。
- ・LINE相談の中で相談者のニーズを汲み取り、相談者に対し適切なタイミングでアウトリーチ支援を提案し、アウトリーチの実施に繋げることが課題である。
- ・LINE相談者や、相談を検討している女性に対し、アウトリーチ支援を行うことが可能である旨を周知していく必要がある。

事業の概要

<概要>

新型コロナウイルス感染拡大やコロナ禍等の社会情勢の影響を受け、孤独や孤立による不安、就労・就学・暮らしに対する困難等を抱える女性を対象としたLINEを用いた相談窓口を開設することにより、若年女性の居場所(SNS)を提供するとともに、適切な機関や相談窓口、アウトリーチ支援に接続する体制を構築した。

LINE相談者のうち、さらなる支援が必要であると判断した相談者に対し、アウトリーチ支援を実施した。

<実績>

・アウトリーチ実績 6件

